

Kimiko Itoh

津軽弁 JAZZ

JAZZ Dabe! JAZZ Dasa!



<収録曲>

- 1 ブルームーン
- 2 恋に恋して
- 3 ラスト・ダンスは私と
- 4 この素晴らしい世界
- 5 降っても晴れても
- 6 虹の彼方に

<メンバー>

伊藤君子:ヴォーカル
宮本貴奈:ピアノ、鍵盤ハーモニカ
坂井紅介:ベース
ジーン・ジャクソン:ドラムス

<スペシャル・ゲスト>

佐藤竹善:ヴォーカル(4)
上妻宏光:津軽三味線(3)

伊藤君子 2015.10.23発売 津軽弁ジャズ ~ジャズだべ!ジャズださ!

CD: COCB-54180 ¥2,500+税

津軽弁がジャズになる。

日本の至宝、伊藤君子が歌う
唯一の“津軽弁ジャズ”。

伊藤君子と佐藤竹善(ヴォーカル)、
上妻宏光(津軽三味線)の初共演も収録!

facebook

伊藤君子オフィシャル

facebook Pageは

こちら

[https://www.facebook.com/](https://www.facebook.com/itohKimiko)

itohKimiko



伊藤君子は、香川県小豆島生まれ。

4歳の時、ラジオから流れる美空ひばりの歌声に魅せられ歌手を目指す。

1982年、アルバム「バードランド(THE BIRDLAND)」でレコード・デビュー。その後、ニューヨークのジャズクラブへの出演、また、日野皓正グループをはじめとする日本の本格派ジャズグループとの共演で、その歌唱力は国内外で高く評価された。

1989年、ソニー・ミュージックより日米同時発売されたアルバム「フォロー・ミー(FOLLOW ME)」は米ラジオ&レコード誌のコンテンポラリー・ジャズ部門の16位にチャート・インするという日本人女性ヴォーカリストとして初の快挙を成し遂げた。ジャズ・ヴォーカリストとして確固たる地位を築いた伊藤君子は以降、アルバム、コンサート、海外のジャズフェスティバル、テレビ・ラジオ番組、ライブハウスと幅広い演奏活動を続け、スイングジャーナル誌の人気投票では1988～96年の女性ヴォーカリスト部門第1位を獲得した。

1997年、世界で最大のジャズ・フェスティバルである、スイス・モントルー・ジャズ・フェスティバルに小曾根真と共に出演。

2000年に発売されたニューヨークでのスタジオ・レコーディング・アルバム「KIMIKO」はプロデューサーに小曾根真を迎え、ヴォーカリストとしての伊藤君子の魅力を存分に引き出したものと評価されスイングジャーナル誌2000年度ジャズディスク大賞日本ヴォーカル賞を受賞した。

2004年には、再度、小曾根真をプロデューサーに迎え、ビッグ・バンド(ノー・ネーム・ホーセス)との共演アルバム「一度恋をしたら」を発表。同年、更に、押井守監督の映画「イノセンス」の主題歌を歌い話題となる。

2007年には津軽弁でジャズを歌ったミニ・アルバム「津軽弁ジャズ～ジャズだが?ジャズだじゃ!」を発表するなど、新しい挑戦を続けている。

2010年10月には6年振りのアルバムとなる「まっかなおひるね」が発売となった。これは同年2月にベルリンで録音されたもので、ベルリン在住のピアニスト、高瀬アキとのコラボレーション・アルバムで、全篇日本語の歌詞によるもの。芥川賞作家：多和田葉子、伝説的なビート詩人：白石かずこの詩に高瀬アキが由を書き下ろした意欲作となっている。録音後、高瀬アキ、井野信義と共にパリ、ローマ、セネガルとコンサート・ツアーを行った。なお「まっかなおひるね」のジャケットには世界的なポップアート作家、奈良美智氏の絵が使われている。

2015年10月23日「津軽弁の日」に、日本コロムビアより津軽弁ジャズのニュー・アルバム「津軽弁ジャズ～ジャズだべ!ジャズださ!」リリース決定。スペシャル・ゲストに初共演となる佐藤竹善、上妻宏光を迎えた傑作を完成させた。



伊 藤 君 子 ラ イ ヴ ・ ス ケ ジ ュ ー ル

10月15日(木) 東京/吉祥寺・サムタイム

10月17日(土) 東京/学芸大学・珈琲美学

10月23日(金) 青森・青森市文化会館

10月24日(土) 東京/南青山・ボディ&ソウル

10月29日(木) 名古屋・ラヴリー

10月31日(土) 尼崎・あましんアルカイックホール・オクト

11月1日(日) 広島・スピークロー

11月2日(月) 熊本・CIB

11月10日(火) 横浜・ドルフィー

11月19日(木) 川崎・かわさきジャズ

11月28日(土) 東京/南青山・ボディ&ソウル

11月29日(日) 本厚木・キャビン

■ お問い合わせは、各会場または、090-9147-4596 伊藤君子ライブ事務局(担当:海老根)までお願いします。